



QI指標 ⑫手術ありの患者に対する肺血栓塞栓症の予防対策実施率
⑬術後の肺血栓塞栓症発生率 について紹介します！！

○手術ありの患者に対する肺血栓塞栓症の予防対策実施率○

肺血栓塞栓症を引き起こすリスクの高い患者様に対する、予防対策の実施割合を示しています。

○術後の肺血栓塞栓症発生率○

術後に肺血栓塞栓症を発症してしまった患者様の割合を示しています。

※肺血栓塞栓症とは・・・

エコノミークラス症候群ともいわれ、血栓が肺の血管に詰まることで呼吸困難や胸痛を引き起こし、死に至ることもある疾患です。寝たきりの方や下肢の手術後に発症することが多く、弾性ストッキングの着用など適切な予防対策が必要となります。

○手術ありの患者に対する肺血栓塞栓症の予防対策実施率○

〈対象病棟〉 一般病棟

〈計算式〉
$$\frac{\text{「肺血栓塞栓症予防管理料」が算定された退院患者数}}{\text{全身麻酔かつ肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数}}$$

当院では予防対策は必ず行っておりますので、絶対**100%**です！

○術後の肺血栓塞栓症発生率○

〈対象病棟〉 一般病棟

〈計算式〉
$$\frac{\text{術後肺血栓塞栓症の発生件数}}{\text{全身麻酔かつ肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数}}$$

肺血栓塞栓症が発生した件数は2016年度・2017年度ともに**0件**です！



2つの指標の分母は一緒です。
実施率は100%、発生率は0%ですので、**分母の数値のみ示します。**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016年度分母	24	23	28	30	17	19	19	19	14	14	18	28	253
2017年度分母	18	21	22	23	17	18	22	22	24	19			206

肺血栓塞栓症と手術の関係性

🌱 ちょっと豆情報 🌱
「肺血栓塞栓症について」や
「予防方法」をご紹介します！

この病気は肺動脈(※)に血液の固まりが詰まる病気です。9割以上は脚の静脈内に血液の固まりができてしまい、血流に乗って運ばれ、肺動脈に詰まってしまいます。

心臓から送り出された血液を脚から心臓に戻すには、脚の筋肉を使用します。立って歩く人間は歩行することで脚の筋肉が静脈をマッサージして、血液を押し上げます。補助ポンプの機能を果たしているのです。

つまり、入院期間が長いと寝たきりになってしまい、静脈に対する脚の筋肉マッサージ効果がないため、静脈が拡張し血流が遅くなり、血栓ができやすくなってしまいます。

また、手術中は筋肉の緊張を緩めるお薬を使用するため、脚の筋肉も緩くなるので静脈は拡張します。それに加え、手術後は血液の固まる能力が高くなるので、肺血栓塞栓症のリスクが上がってしまうのです。

※肺動脈・・・肺に静脈血を送り出す血管のこと。肺に向かうに従って血管は細くなる為、そこで詰まってしまう。

手術後の予防法

①早期離床



大変ですが少しでも早く
離床し、歩くことは大切です。

②弾性ストッキング

ハイソックス(膝丈)タイプ



「提供：日本コヴィディエン株式会社」

肺血栓塞栓症の発生を予防する簡単な方法として
広く使用されています。

下肢のサイズを測定し適切なサイズを選択するこ
とが重要です。

③血栓予防装置(フット・ポンプ)



下肢を空気圧で圧迫することにより
静脈の血行を促進し、肺血栓塞栓症
を予防します。

もし、手術後に肺血栓塞栓症になっ
てしまったらどんな治療をするの？

手術後の合併症だけでなく、日ごろからデスク
ワーク・長時間の運転等座りっぱなし・立ちっぱ
なしが多い方は、少しでも合間に脚を動かして
血栓予防をしましょう！水分補給も忘れずに！



詰まった血栓に薬を投与して
溶かすか、手術をして直接血
栓を取り除き、肺の血液の流
れを回復させます。

次回は「新規入院患者における重症患者受入率」
「日常生活機能評価が4点以上改善した重症患者の割合」を取り上げます！！
おたのしみに・・・♪